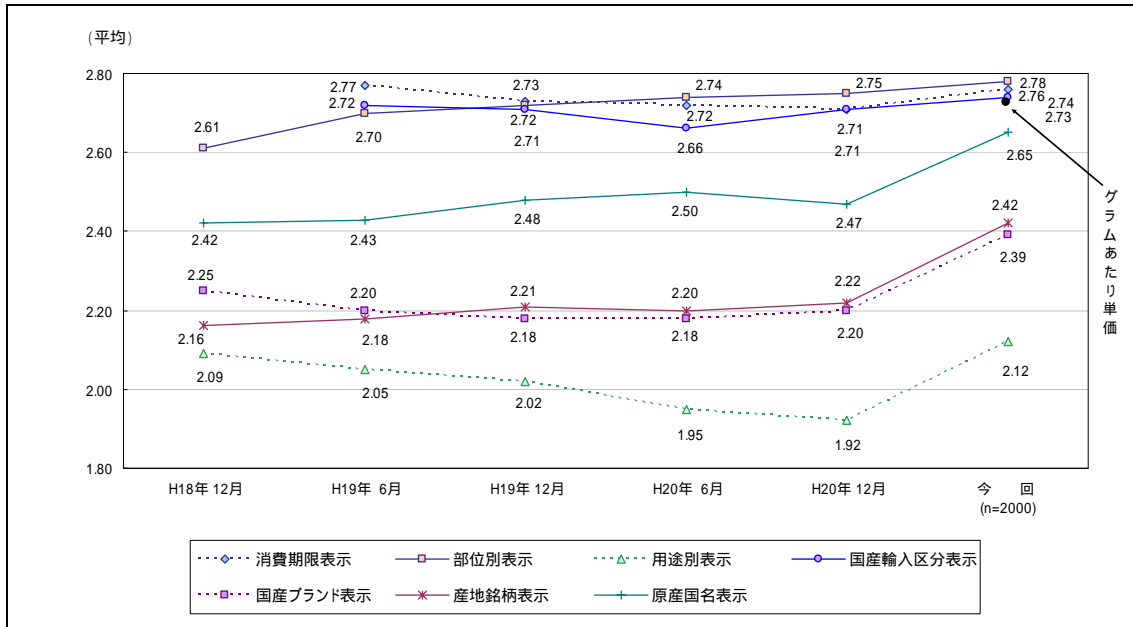


## 第 章 食肉の表示や情報について

1 食肉の表示の関心状況の推移

図表 - 1 食肉表示の関心状況の加重平均推移



「気にして必ず見る」に(+3)、「時々見る」に(+2)、「あまり見ない」に(+1)、「全く見ない」に(0)の値を乗じて平均を出した加重平均値を基に比較する。

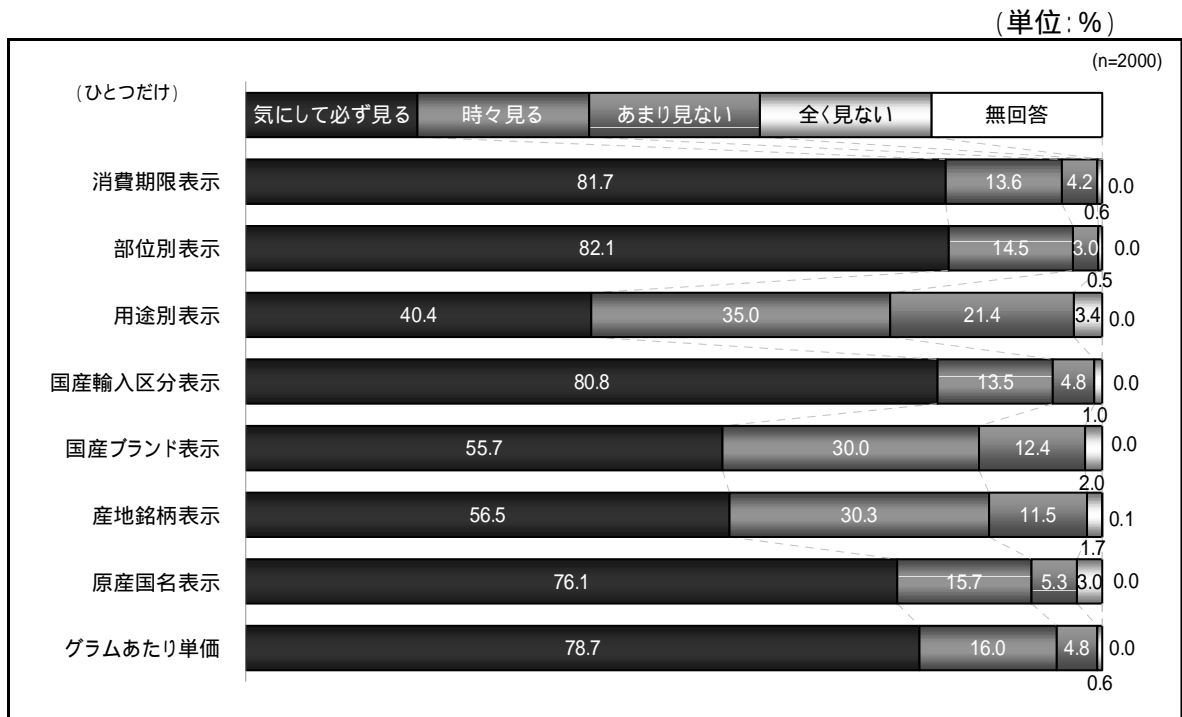
前回までも加重平均値が高かった「部位別表示」「消費期限表示」「国産輸入区分表示」が今回も2.7を越えた。今回項目を追加した「グラムあたり単価」も2.73と、消費者の関心が高いことがわかった。

「原産国名」「産地銘柄表示」「国産ブランド表示」「用途別表示」はいずれも約0.20ポイント増加した。

前回調査までは大きな変化はみられなかったが、今回は食の安全を脅かすような社会問題も相次いでおり、食肉表示などからも商品に関する情報を入手しようという生活者の意識の表れがうかがわれる結果となっている。

## 2 食肉の関心状況一覧

図表 -2 食肉表示の関心状況



「部位別表示」「消費期限表示」「国産輸入区分表示」はそれぞれ「気にして必ず見る」が、82.1%、81.7%、80.8%を占め、非常に関心が高い。「時々見る」まで合わせると、ほとんどの人が購入の際に気にかけている情報となっている。

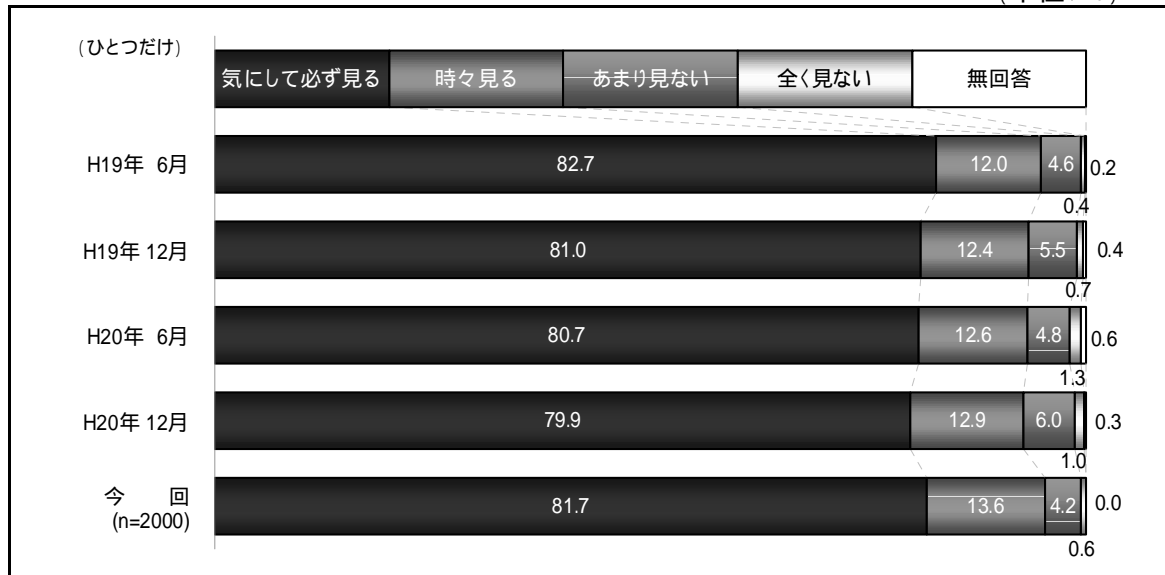
次に関心が高いのは「グラムあたり単価」と「原産国名表示」で、「気にして必ず見る」がそれぞれ78.7%と76.1%で、8割近いスコアとなった。

「産地銘柄表示」「国産ブランド表示」は「気にして必ず見る」の割合はやや低く、それぞれ56.5%、55.7%。「必ず見る」人は半数強となっている。「用途別表示」はさらに低く、「気にして必ず見る」は40.4%にとどまる。

## 3 食肉の表示内容別関心状況の推移

図表 - 3 消費期限表示の関心状況推移

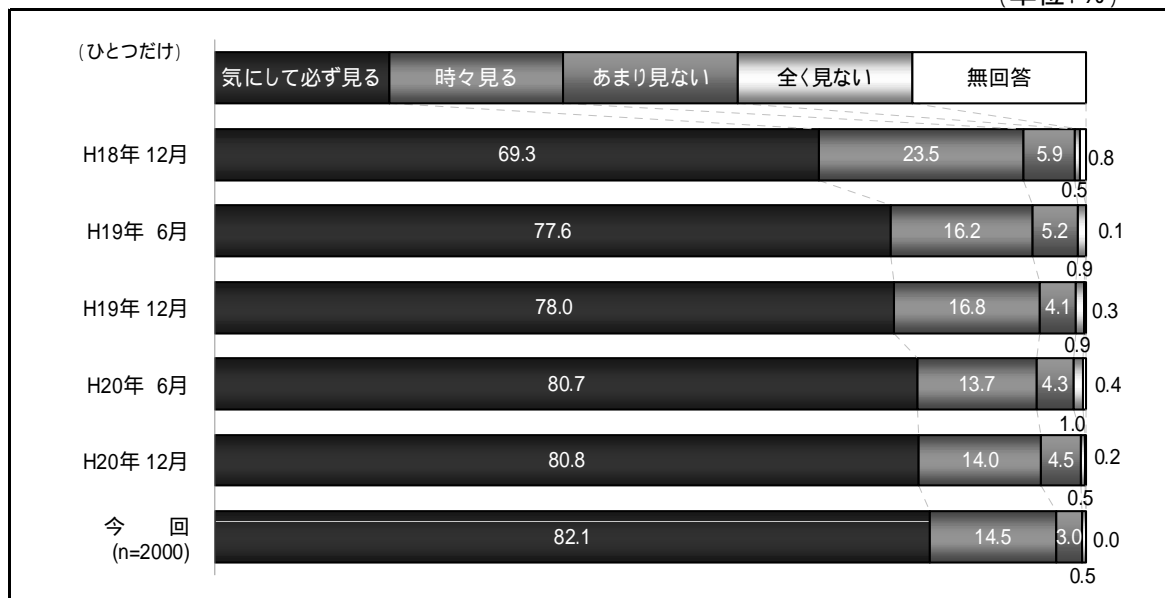
(単位: %)



「消費期限表示」については「気にして必ず見る」が、H19年6月の82.7%からH20年12月の79.9%まで漸減傾向にあったが、今回は僅かではあるが増加に転じ81.7%となった。全体的にはそれほど大きな変化は見られない。

図表 - 4 部位別表示の関心状況推移

(単位: %)

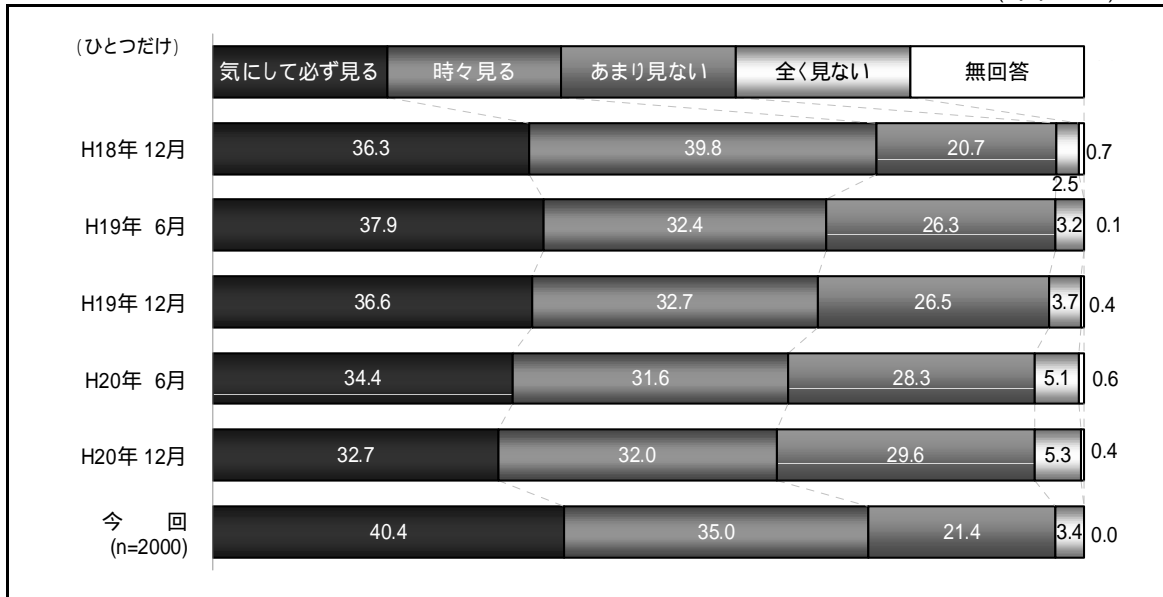


「部位別表示」については、「気にして必ず見る」が、H18年12月の69.3%からH20年12月の80.8%まで、10ポイント以上の増加となっている。今回もその傾向は変わらず「気にして必ず見る」はさらに増加し、82.1%となっている。

### 3 食肉の表示内容別関心状況の推移

図表 - 5 用途別表示の関心状況推移

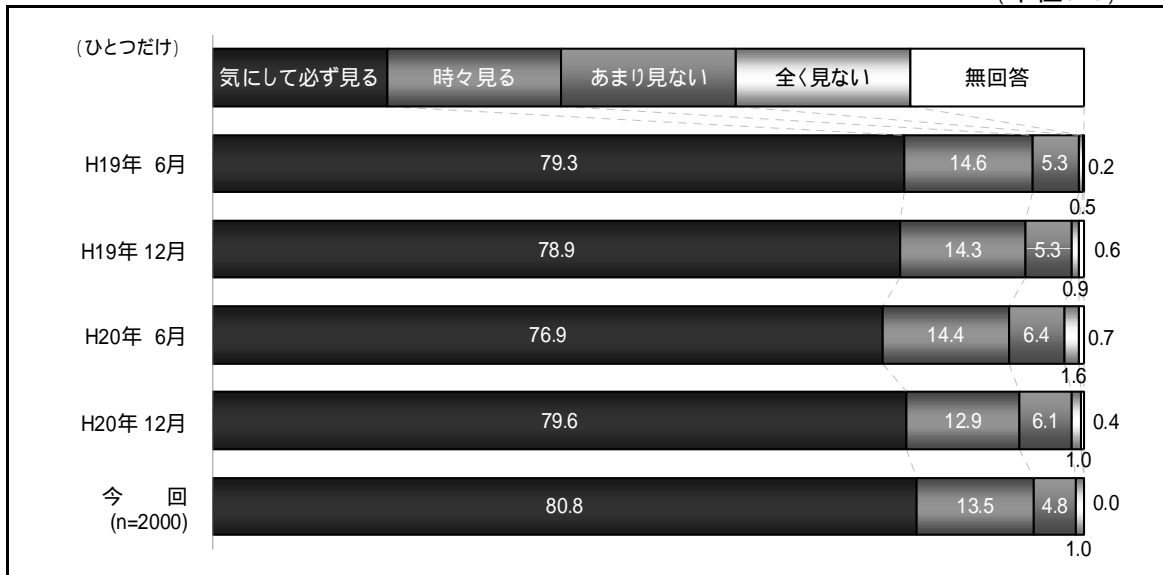
(単位: %)



「用途別表示」については、「気にして必ず見る」が、H19年6月の37.9%からH20年12月の32.7%まで、漸減傾向にあったが、今回は増加に転じ40.4%となった。しかし他の表示項目に比べると「気にして必ず見る」人は少ない。

図表 - 6 国産輸入区分表示の関心状況推移

(単位: %)



「国際輸入区分表示」については、「気にして必ず見る」が、H20年6月では76.9%と、他の時期の調査と比べるとやや低かったものの、それ以外はH19年6月の79.3%からH20年12月の79.6%まで、ほぼ横ばいで推移している。全体的には特に大きな変化は見られない。

3 食肉の表示内容別関心状況の推移

図表 - 7 国産ブランド表示の関心状況推移

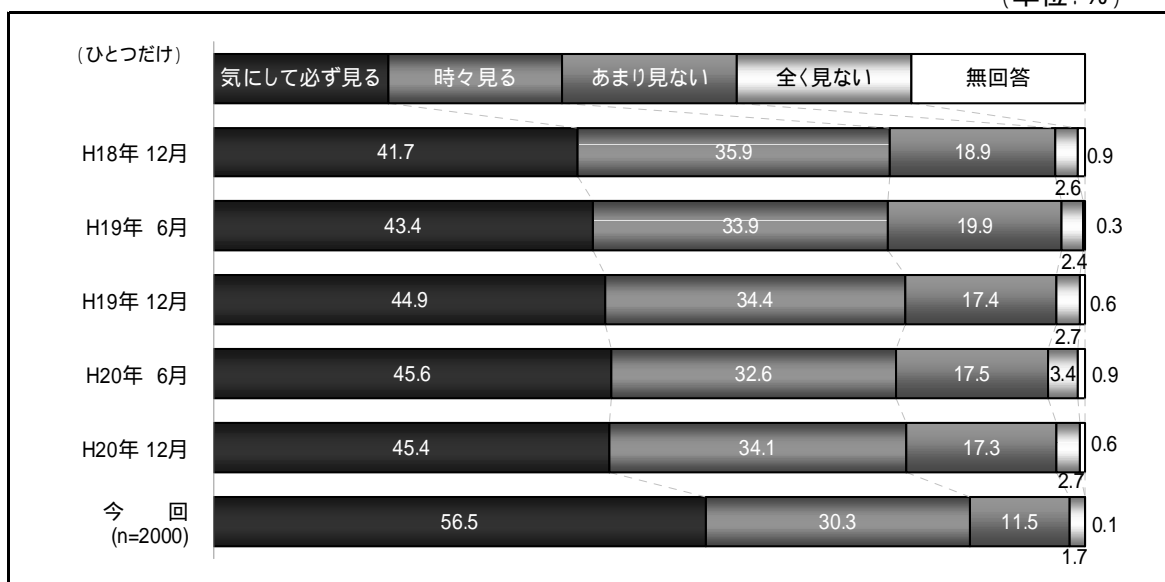
(単位: %)



「国産ブランド表示」については、「気にして必ず見る」が、H19年6月の46.2%からH20年12月の47.5%まで、ほとんど変化が見られなかったが、今回は8.2ポイントと大きく増加に転じ、55.7%となった。様々な食品の産地偽造事件など、社会的状況の影響も考えられる。

図表 - 8 産地銘柄表示の関心状況推移

(単位: %)

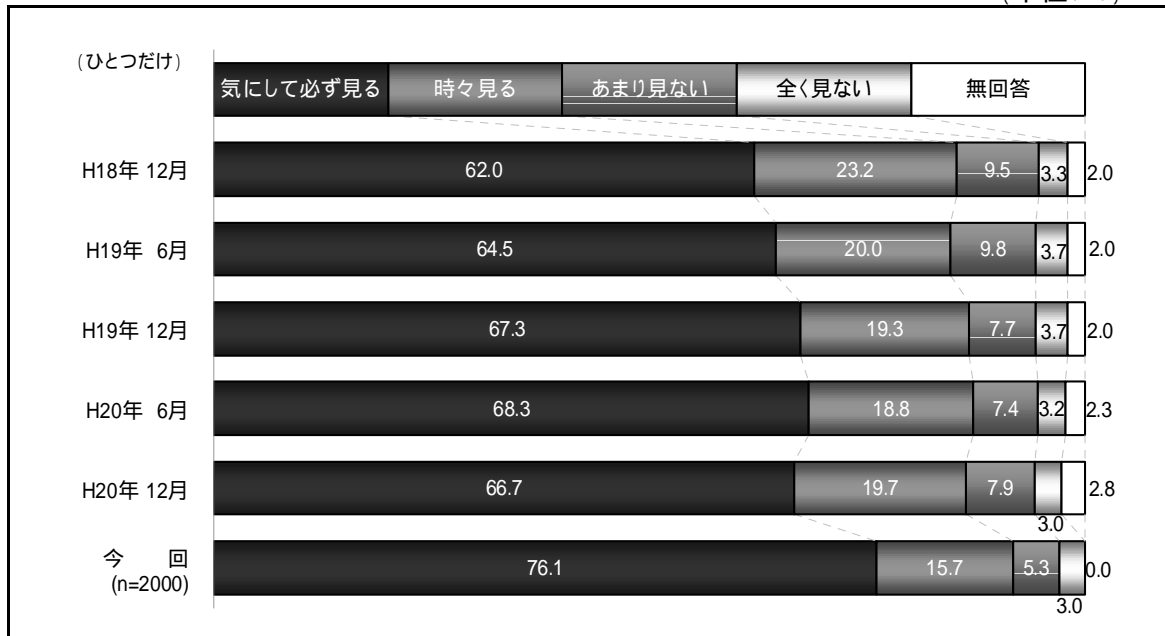


「産地銘柄表示」については「気にして必ず見る」は、H18年12月の41.7%からH20年12月の45.4%まで、漸増傾向にあったが、今回はさらに11.1ポイントと大きく増加し、56.5%となった。国産ブランドと同傾向が見られる。

## 3 食肉の表示内容別関心状況の推移

図表 - 9 原産国名表示の関心状況推移

(単位:%)



「原産国名表示」についても「気にして必ず見る」が、H18年12月の62.0%からH20年12月の66.7%まで漸増傾向にあったが、今回ではさらに9.4ポイントと大きく増加し、76.1%となった。ここ半年に限った話ではないが、様々な食品の産地偽造事件が続いており、そうした社会的状況の影響も考えられる。